

胡屋バスタの実施状況について ～沖縄市の交通拠点づくり～

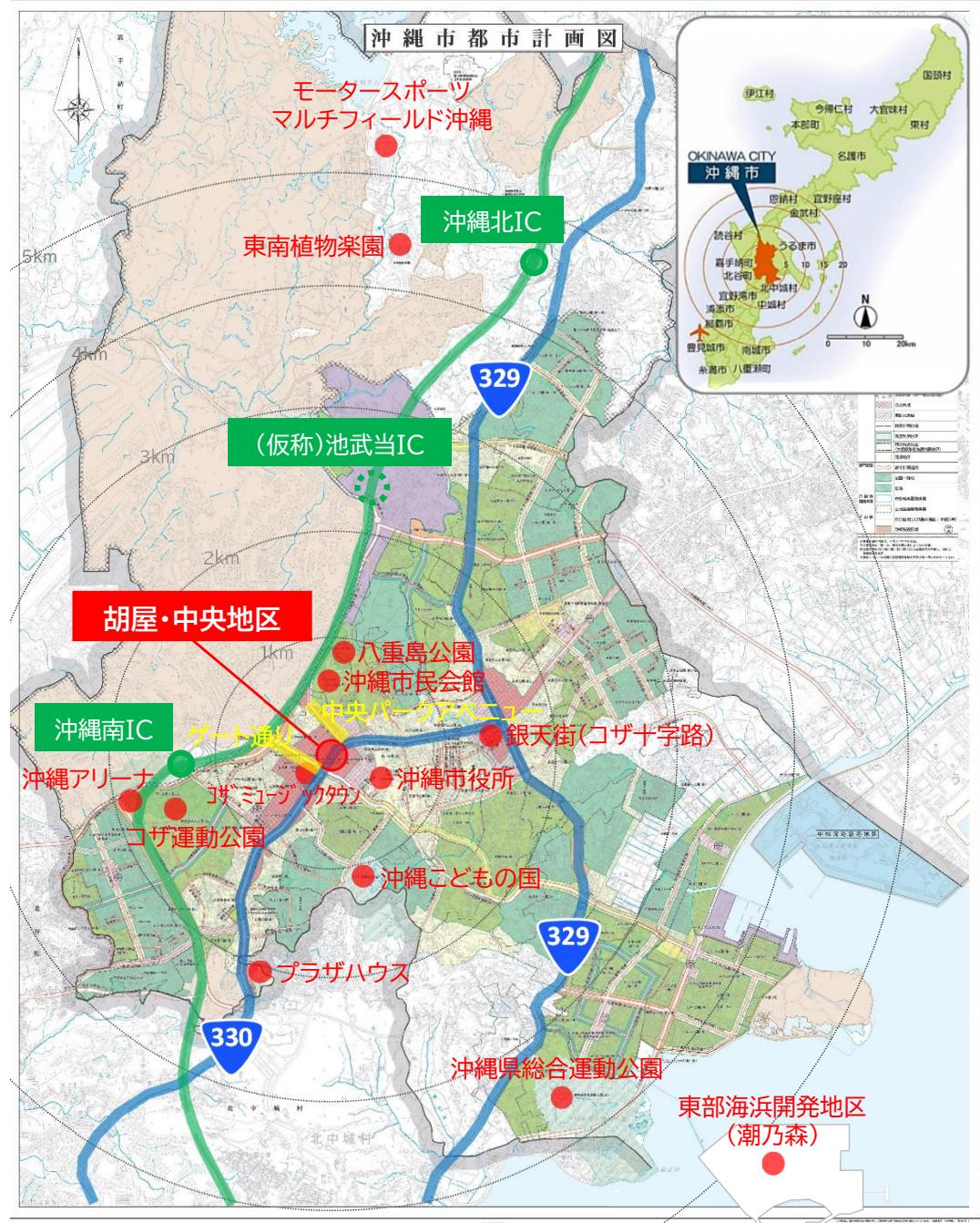
2026.1

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

沖縄市の概要

沖縄市

- 沖縄本島の中央部にある農村地域であったが、戦後、米軍基地の門前町として発展
- 人口 約14.16万人（県下2位）
- 市域面積 約49.72km²
- 1974年に旧コザ市と旧美里村の合併で誕生
- 市域の約35%は米軍基地等が占める
- 第3次産業の就業者数が約8割
- 40か国以上の外国人が居住
- 「国際文化観光都市」を将来像に掲げ、音楽のまち、エイサーのまち、子どものまち、スポーツコンベンションなど、特色を活かしたまちづくりに取り組んでいる。



国内外へ発信し続ける伝統文化 “エイサー”

- 太鼓踊りや手踊りを中心とした伝統芸能
- 沖縄市はエイサーの本場として
平成19年に「エイサーのまち」を宣言
- 夏に「第70回沖縄全島エイサーまつり」
今年は3日間で延べ38万人を集客





“音楽”のまちへ繰り出そう！！！

- ・多彩な伝統文化、芸能、音楽が豊富
- ・毎年数多くの音楽イベントを開催
- ・まちには多くのライブハウスや民謡酒場が集積
- ・「コザ・ミュージックタウン」が誕生
- ・来場者数：約6.5万人/年 (R6)



コザ・ミュージックタウン



日本一ユニークな動物園へ！

- ・沖縄県内で唯一の本格的な動物園
- ・既存区域約16ha
(拡張予定：約13ha)
- ・リニューアル整備進行中
- ・土日祝は21:00まで (平日17:30)
- ・来場者数：約72.7万人/年 (R 6)



本市初！市民待望！
県内最大級の**“ビーチ”**（約900m）



【事業概要】

埋立面積： 約95ha
埋立形式： 出島方式

“沖縄サントリーアリーナ”



【施設概要】

延床面積： 約26,200m²

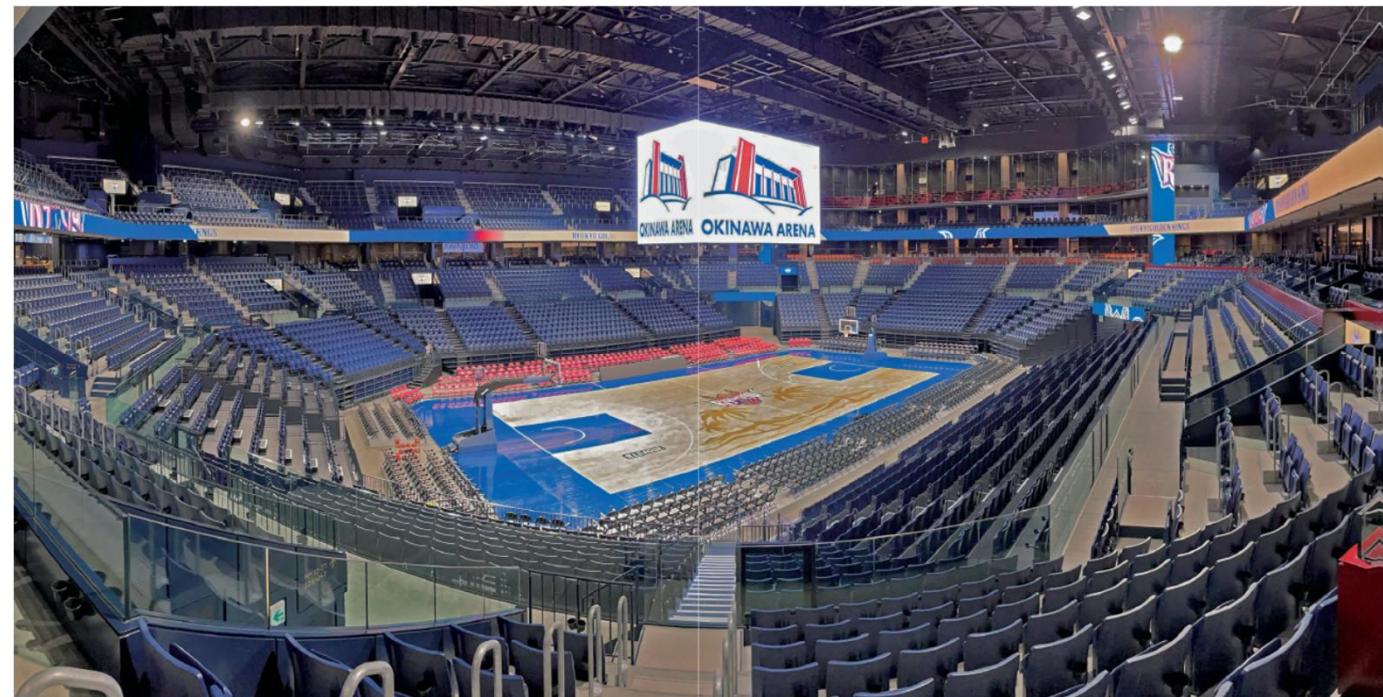
天井高： 28m

構造階数： 鉄骨鉄筋コンクリート造
地上6階

観客席数： 10,000席（最大）

供用開始： R3.3月

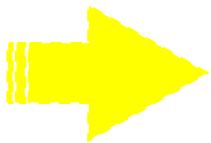
来場者数： **32万人** / ホームゲーム
(Bリーグ2024-2025)



中心市街地（胡屋・中央地区）の現状

沖縄市

おそらく、沖縄市の商店街イメージは…



近年、飲食店やイベント等を中心に、“にぎわい”が起きています。



中心市街地（胡屋・中央地区）の現状

沖縄市

- まちなかでは、既存ストックを活用した、店舗、飲食店、宿泊施設等が増え、商店街の景色が変わり始めています。



- “まちなかへのアクセス性や回遊性の向上”が課題 ⇒ **胡屋・中央地区交通結節点の整備**を位置づけ。

沖縄県沖縄市

中心市街地活性化基本計画概要

【3期計画：令和6年4月～令和11年3月】

【自治体の概要】 人口：142,351人（R5.4.1・住民基本台帳）、面積：49.72km²

- ・戦前は農村地帯であったが、米軍基地の門前町として商業地区が発達。国際色豊かな街並みと、音楽や伝統芸能が盛んな独自の文化を形成。
- ・異国情緒漂う街並みやライフスタイル、50か国以上の外国人が暮らす国際色豊かな風土と、伝統文化と異文化が融合した個性的な文化を源泉に、内外を魅了するエンターテイメントとビーチ・フロント観光の創出で地域経済をけん引し、さらなる発展をめざしている。

【中心市街地の課題等】

1) 地域経済活性化の推進

空き店舗、閉鎖店舗対策や、商店街を中心とした賑わい創出、地域資源の県内外への発信、交通結節点の整備を見据えたまちづくりなど、街のさらなる魅力の向上が求められている。

公共交通機関の充実や拠点施設からまちなかへの誘客など、アクセス性や回遊性の向上が課題となっている。

2) 住む人、訪れる人、働く人にとって快適な環境づくり

建物の老朽化やまちなかのゴミ・騒音等の対策をはじめ、区画整理事業の推進や子育てや働きやすい環境づくりなど、安全・安心かつ快適に過ごせる環境づくりが求められている。

3) 推進体制の強化

実施主体間・関係団体等の連携強化や民間活力の活用促進に取り組む必要がある。

【計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値 (R4)	推計値 (R10)	目標値 (R10)
拠点施設や地域資源の魅力を活かしたにぎわい創出	歩行者通行量（休日）	5,486人/日	5,842人/日	6,864人/日
	観光関連施設入込客数	918,192人/年	1,000,139人/年	1,653,300人/年
安全・安心・快適に過ごせる環境整備	都市福利施設の年間利用者数	555,594人/年	961,458人/年	1,100,408人/年

【目指す中心市街地の都市像】

魅力あふれ、選ばれ、沖縄を牽引するまち

【中心市街地活性化の方針】

基本方針1：

歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力を活かしたにぎわいづくり

エンターテインメントの拠点となる施設等からの街なかへの誘客及び集客の促進、交通結節点の整備を見据えた回遊性の向上を図るとともに、魅力的な地域資源を最大限活用し、交流人口の拡大を目指す。

→目標：拠点施設や地域資源の魅力を活かしたにぎわい創出

【歩行者通行量（休日）】37事業 【観光関連施設入込客数】6事業

基本方針2：

地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

安全安心に過ごせるまちづくりの推進に向け、地域課題の解決等に取り組むとともに、子育て支援や就労支援のほか、健康増進や憩いの場の確保に取り組み、住みやすい、働きやすい、快適なまちを目指す。

→目標：安全・安心・快適に過ごせる環境整備

【都市福利施設の年間利用者数】12事業

【前期計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値(H27)	目標値(R3)
まちなか交流の促進によるにぎわいの創造	歩行者通行量（休日）	8,866人/日	9,380人/日
	観光関連施設の入込客数	448,961人/年	683,207人/年
中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善	都市福利施設の年間利用者数	829,808人/年	867,308人/年
	居住人口の増減率	▲5.6%(H21～26年)	▲4.4%(H29～R4年)